

松平直亮 まつらひら ちかひら 育英事業家。慶應元年九月出雲國生れ、昭和十五年十月歿（八五—一九四〇）。幼名陽之進、懐之丞。號簡堂。父は松江藩主松平定安。明治六年大阪府造幣局附屬共學校に入り、その後上京して漢學を修め、十五年學費院入學。十九年西村茂樹の日本弘道會に入り、二十四年同會編輯監督、二十八年会長に推舉せられる。二年後病を獲て辭任すると、終生會祖の顕彰に努め、その著作出版に出資を借しおなかりた。二十二年修養會を興し、南摩羽峰、土屋鳳洲等を講師として、哲學、倫學の講筵を開き、一方華族の道德實踐の會として躬行會を設け、會誌『躬行』を創刊した。京秩寮審議官、斯文學會顧問、育英會總裁等を務める。伯爵。

西村茂樹著 『西村先生道德問答』（昭和十一年六月十三日日本弘道會）、

『道德教育講話』（昭和十二年五月十五日日本弘道會）、 『治翁修養

訓』（昭和十四年八月二十日修德團）等を編纂刊行。